

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800799		
法人名	社会福祉法人恵寿会		
事業所名	グループホームグリーンヒルみふね		
所在地	熊本県上益城郡御船町木倉1720-6		
自己評価作成日	平成21年11月13日	評価結果市町村受理日	平成21年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	平成21年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有資格者の職員が多く、介護や家庭生活において豊かな経験を持ち、入居者一人ひとりの状態に添い柔軟な対応ができる。
自然に恵まれた環境の中で、四季の移ろいを感じながら快適な生活ができる。
同じ敷地内に有る温泉からの引水により、毎日温泉浴を楽しめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニット毎に個性あるケア(入浴時間や食事メニュー等)や雰囲気のほか、新米をはがまで炊き収穫の喜びを両ユニットで共にする等広いデッキを中心に共同生活を楽している。開所時より地域の中に積極的に出る姿勢が受け入れられ、地域の祭り等企画段階から参加したり、清掃ボランティアとして地域住民も協力的であり、相互交流に取組んでいる。全職員が有資格者という経験を活かし入居者本位の質の高いケアを目指した取組が、認知症状の軽減につながり今では穏やかな生活となって表れ、高齢化が進む中において入居者・家族の思いである“元気で終の棲家としての生活支援”に職員が一丸となって取組んでいる。母体の特別養護老人ホームとの連携や職員の日々の健康管理が入居者・家族の安心感となり、職員の笑顔での対応や観察力を持ったケアにより、明るく生き生きとした生活となって表出されている。“明るく 楽しく 優しく”の理念を実践しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく、楽しく、優しく」の理念は入居者のみならず関わるすべての人との関係作りの中で大切な目標としている。入居者にとって心地よい生活空間、スタッフとの信頼有る関係作りの基本とし、毎朝唱和している。	開設時より理念は人間としての規範となるものとして、日々の唱和や掲示により意識向上を図っている。また、施設目標・事業所目標・ユニット毎のチーム目標と個人目標を立て、全職員が共通意識を持ち、その実現に日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催事には積極的に参加し自治会への参加や地域の方々との交流行事を双方の話し合いで計画し実施している。又、回覧や運営推進会議を活かし細かな情報を得たり、随時連絡、調整を行い参加している。	自治会へ加入し、隣保組の組長として回覧板や行政便り等の配布等を行い、地区の祭りにはホームも企画段階から参加し、地域での敬老会等も企画・参画する等、近隣に民家が少ないという環境にある中、積極的に地域の中との交流を図り、環境美化活動に参加する等地域の一員として活動している。また、地域住民も清掃ボランティアとしての協力もあり、相互交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に貢献し、より身近な施設、職員像を目指すことを意識しているが、積極的な活動は実施できていない。キャラバンメイトとしての役割、地域の中における認知症の啓発活動は、今後も努力目標である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は年間計画を行い、更に有意義な会議となり、役場担当者からの情報提供や地域、行政、事業所それぞれの立場から介護の現状、今後への課題等につき活発な意見交換が実施できている。	2ヶ月毎と定例化している運営推進会議は、今年度から年間計画のもと、家族会長の参加を全家族がローテーションを組んでの参加へ変更している。ホームの活動報告や地域の高齢者問題等の活発な意見交換となっており、看取り・終末期医療なども議題にあげ、委員からの情報を地域の中での生活拡充につなげる等サービス向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ随時の連絡をとり、協力関係が得られる体制が有り、現状での課題や入居者に関する相談等、相互に連携を取りながら更に良い関係作りとなるよう努力している。	運営推進会議での情報交換や今年度は特に小規模事業所立ち上げに頻繁に担当部署に出向き相談したり、入居希望者の紹介等もあり、生活保護担当者との連携を図っている。ホーム側も町が推進している“認知症になっても安心して暮らせる町づくり”に協力し、行政からも行事への参加もあり、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日帰宅願望の有る入居者についても、認知症の症状に対する個別の対応を重視し、職員全員が拘束の無いケアを実践している。	身体拘束について法人全体での研修や外部研修に参加した職員による伝達講習等により共有化を図っている。特に、施錠での生活や言葉での封じ込めについては、如何に尊厳を傷つけるか等弊害を正しく理解し、事故・ヒヤリハットをもとに話し合い、帰宅願望に勤務体制を見直したり、一人ひとりの症状を全員が共有し、見守りや所在確認・寄添いのケアに努めており、身体拘束等の実態はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止につきスタッフが介護の基本事項として理解している。豊かな経験を活かした尊厳のある認知症ケアを実践し一人ひとりの症状に対する適切なケアに努めている。虐待をしない介護は認知症介護の基本としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支	現在対象となる入居者はいないが、今後の可能性を踏まえ、学びを深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際の不安、疑問については、契約前において充分納得いただけるよう随時丁寧に説明、回答を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで家族等の意見、苦情についてはいただけていないが、常に意見を表せる体制や関係作りを努めている。	入居者とは何でも気軽に言える関係作りへの取組により普段の会話から聞き取りし、家族からは訪問時や運営推進会議・家族会の意見交換会等を行ない、訪問者を知りたいとの家族の要望に業務日誌に記入していることを説明し対応している。また、ホーム内外の苦情相談窓口を明示している。	入居者・家族・職員との1泊旅行等親睦会も開催しており、家族との関係は良く苦情等の申し出は無い。今後も意見箱の設置や職員の勤務体制の明示(顔写真の掲示等)により、意見や要望の収集に努めていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、施設長、当該職員によるヒアリングの実施を行っている。	管理者と職員や職員同士も何でも言い合える関係にあり、朝礼やミーティングを通じた意見交換や、年1回職員との面談を行う機会を設けている。日々の職員の意見や提案は管理者を通して部長や施設長へ上がる体制である。施設長も週1回昼食を入居者・職員と共に行い、現状把握や職員との対話に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内における人事評価制度を用いて処遇改善等行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回のヒアリングにおいてその職員が何を学びたいか把握すると共に、必要に応じた研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城ブロック協議会において2か月に一度交流を実施し勉強会を行っている。毎回情報交換、研修会、懇親会等、意欲的に取り組んでいる。総合間の良い関係作りができおり個別の連携も随時行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の本人を取り巻く現状を把握し、本人の思いや不安に対し傾聴し、充分納得を得られるまでの対応を行ない安心していただくことにより信頼ある関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の現状に対し充分傾聴し困っていることへの共感、家族の思いを把握しながら施設、職員への信頼を感じていただけるよう常に意識し安心して相談できる関係づくりに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の状況により、実情に沿ったサービスの検討や、家族の希望を勘案しながら今、必要なサービスを見極めた利用の提案、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する者同士という関係を前提とし、お互いに協力することで快適な生活を行う喜び、楽しみを感じていただき一人ひとりの支えあう関係を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あくまでも家族、本人の絆は変わるものでなく、通常は生活の場を共にしていなくてもより以上に本人にとっての支えとなり、家族としての愛情、温かい関係を感じていただけるよう協働している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者個々の生活歴や現状に合った支援を行っている。同窓会や地域行事等本人の喜びや楽しみが継続できるよう努めている。	家族や知人の訪問や電話等の支援、同窓会への参加、馴染みの美容院に出かけたり、家族との食事、葬儀や法要に参列される等個々の情報を把握し、家族の協力を得ながら馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの認知症の症状に配慮しながら、孤立や、疎外感を無くしやさしさや思いやりの気持ちを持って支え合えるような雰囲気作りを努めている。常に入居者間の良い関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の待機時や利用終了後も関わりを持つ関係として大切に、随時の相談やアドバイス、又、情報をいただいたりしながら相互の良い関係作りを努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向については、把握するには困難な場合が多いが、共に生活し会話をする中で気づき、思いを察知し本人本位の暮らしを支援するよう努めている。	入居者の言動や行動を把握し、傾聴により個々の思いを気づき、意思を尊重しながら生き生きとした生活を支援する。意思疎通が難しい場合には表情やしぐさ等から推察し、連絡帳を介して職員の気づきを共有しながら本人本位となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族との会話の中から一人ひとりの暮らし方、周囲との関係、馴染みの暮らしを把握し共有するよう努めている。又、それまでのサービス利用事業所等との必要な連携をとりながら今後のサービス提供に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活スタイルを大切に、表情や体調の変化を常に敏感に察知し、一人ひとりの可能性を最大限に活かす暮らしへの関わりを、スタッフ全員が周知し実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や、面会時に家族との話し合いを設け、意向や希望に即したプランを作成している。又、1ヶ月毎のモニタリング、随時のスタッフ間の話し合いにより利用者の変化に即したプラン見直しを実施している。	家族の訪問時やサービス担当者会議時に家族と話し合い、日々の詳細な個別記録や連絡帳に記録し、毎月のモニタリング、状態変化に随時話し合い、現状に即したプランを作成している。職員の観察の結果が反映された個別的・具体的な介護計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子や夜間の状況を個別記録し、スタッフ間の詳細な情報交換により統一した介護の実践を行っている。又、気づきやアイデアにつき連絡帳に記入したり、プラン作成に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応を基本とし、日々の状況の中で利用者や家族の要望に随時対応できる体制が有り、通常の生活の一場面として支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や老人会のボランティア活動時の交流や、近隣商店への買い物外出、又、同地区内の理容師さんによる散髪を依頼し、随時に実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院において主治医との情報交換を密に行い、適切な治療が随時受けられる体制が整っている。定期的な回診、必要時の受診等常に連携をとり主に職員が受診支援を行っている。	入居時に協力医療機関を説明し、月1回の往診や定期受診には職員が同行し、病状によっては家族と職員が付き添い情報の共有化を図り、適切な医療を支援している。インフルエンザ等の予防接種やレントゲン車による検診がホーム敷地内で受けられる等優しい行政の支援も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHの看護職員として1名が配置されている。又、母体施設の看護師の協力体制も整っており、日常の変化に迅速に対応できる確かな対応、指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院から退院までの過程の中で病状経過や随時の情報交換等、看護師が中心となり連携を行っている。又、必要に応じ、主治医、家族、職員による話し合いの場を設け、現状把握、情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化に伴ないが、主治医、家族、施設の話し合いを設け、検討を重ね状況や家族の希望に添いながら状況に即した対応を実施している。状態の変化に即した対応の実施につき家族の理解を得ながら方針を共有している。	入居時にホームで出来る支援方法を提示し、状態変化を見極めながら、家族・主治医・ホーム側で話し合いを重ねている。継続的な医療行為の必要性やホームでの生活が困難な場合は母体の特養ホームや医療機関への移動となっているが、終の棲家としての希望もあり、ホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。運営推進会議でも看取り・終末期医療について説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故やヒヤリハットの発生につき、事後の検討会を行い、発生時の対応やシミュレーションによる事故防止委員会を行っている。又、勉強会の時間を利用し、訓練、実践力を全員で身に付けるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所全体の訓練や勉強会、GH独自の避難訓練を定期的に行っている。又、職員連絡網の伝達訓練を行い、非常時の迅速な召集、訓練後の反省、改善につき全員で検討している。今後地域との連携を更に深めたい。	消防署立会いのもと、母体主体の総合訓練に参加したり、ホームでの自主訓練(避難・通報訓練等)を行っている。災害マニュアルを作成し、有事の際の対応手順を全員が共有し、近くに民家が無いことから運営推進会議を通じて行政や地域代表者に協力依頼を行っている。	隣保組の組長として活動されており、まずは訓練の様子を確認してもらう等防災訓練の日程の周知を図り、地域住民への安心感につなげ、地域住民との協力体制の強化が期待される。また、非常時の備蓄も検討いただきたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性や人格を尊重し、一人ひとりに合った対応を職員全員が心掛けている。認知症に伴う症状に配慮し、本人の心理状態、表情を見ながら思いに添った穏やかな対応に努めている。	職員は入居者に親しみを込めながらも、尊敬の念をもって接し、自然体での会話や穏やかな声かけ等一人ひとりに合った対応を心がけている。自信や誇りを損なわないよう支援していることは、トイレ誘導時の対応や車椅子から椅子に異動しての食事対応等から確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員サイドの都合や決まり事を優先せず、本人を主とした対応を行い、利用者自ら表現することのできない思いや希望を、会話や関わりを通し、自己決定できるよう努め、表現できる機会を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で一人ひとりの心身の状態を察知し、本人のペースを大切に思いに添いながら快適に過ごしていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの好みに合った、その人らしさを感じるおしゃれを大切に支援している。又、化粧品等は肌の状態に合った物を選んだり、散髪は地域の理容師さんや、職員が行い、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや身体状況により食事状況を把握し、個別の献立や、食べ安い物を取り入れ本人の意見を取り入れながらおいしい食事作りに努力している。食事作りから片付けまで一緒に行っている。	各ユニットで異なる食事メニューは、差入れの新鮮な野菜や果物を取り入れながら職員と入居者がその日の献立を決めている。10月には新米をはがまで炊き、収穫の喜びを両ユニットで共にしたり、広々としたデッキで食事会を開いたり、入居者の楽しみである食にこだわりを持って、見た目にも美味しい食事を提供している。3方面から使える流し台を囲んで、職員と入居者が和気あいあいと食器を洗われる姿を確認した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は利用者の状態により必要な量を職員全員が把握し、食事、おやつ、随時の水分補給を支援すると共にその日の状況を見極めながら摂取量のバランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯洗浄、うがい等利用者の状態に合った口腔ケアを実施している。歯科担当Drより口腔ケアに関し良い評価を得ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、排泄パターンの把握によりトイレ誘導、声かけを行っている。排泄の失敗についてはさりげなく対応し、本人の行動を見ながら事前に防止できるよう支援している。	個々の排泄パターンを記録し、日中はトイレ誘導を行い自尿につなげている。排泄の意思表示の無い入居者には表情やしぐさ等から察知し細やかなトイレ誘導を行い、機能低下による尿漏れや失禁につながらないようにプランにあげている。また、適度な運動等により自然排便を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンにより適度な運動の実施、又、乳酸飲料等の飲用により排便促進を支援し、必要に応じ主治医に相談しながら、下剤の服用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の状況により午前、午後入浴を実施している。夕食までの間を入浴時間帯としゆっくり入浴していただき、入浴拒否については数回時間をおいて声かけを試み、利用者に合った対応により支援している。	同施設内の温泉施設から引かれた温泉で毎日準備をし、一日置きに入浴される入居者や毎日入られる方等希望により支援している。入浴拒否には声かけの工夫や汚染時のシャワー浴、足のむくみに足浴で対応する等個々に応じ対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながる日中の活動と共に、習慣的、その時の精神状態での睡眠パターンにつき充分考慮し、状態に合った睡眠を支援し安心を感じていただけるよう関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容につき職員全員が把握すると共に、更なる改善に向け症状の変化や確認を随時心掛け、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループ活動や一人ひとりの好みに合った余暇活動行い、自ら参加していただける環境作りに努めている。気分の高揚を図り、生活の活性化や気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然環境に恵まれた中において、四季折々の眺めを楽しんでいただいたり、日常的に外の空気を感じられるよう支援し、足をのばしての外出やドライブ等本人の気持ちに添いながら、随時対応に努めている。	車でのドライブ・季節毎の花見、みかん狩り、神社参拝等多くの外出を支援している。広大な敷地には四季折々の草花や木々が植えられ、入居者は玄関脇の椅子やデッキで自然を満喫されている。自由に散策される入居者もおられ、帰宅願望にホーム周りを散歩することで入居者の気分転換を図り、健康維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活する中でのお金の所持や大切さ、長年の習慣でのお金を使う行為を確認していただけるよう一緒に買い物をしたり、お金の支払いを支援している。利用者の力に応じ行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代筆、代読は必要に応じ行っている。本人からの電話の依頼についても柔軟に、随時の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって快適な室内、共用スペースであることに配慮し、清潔感、明るさ、室温、季節感、雰囲気、馴染みの物、新しい物等毎日の生活の中での快い刺激や安心を感じていただけるよう工夫をしている。	明るく開放的な共有スペースはテレビを囲むようにソファを配置し、段上りの和室は団欒の場や洗濯物たたみの場等として活用され炬燵の用意もある。壁面には季節感溢れる飾りつけがされ、職員と入居者の卵の殻で作った作品等の力作を掛けたり、多くの入居者の日常写真を掲示している。窓からの採光も十分で、午後のひと時をカルタで楽しめる入居者の笑い声が響いていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、和室、ウッドデッキ、食堂、玄関前スペース等、仲間作りや共に楽しめる場として有効に活用している。又、前庭の芝生のスペースにおいても季節を感じながら自由に活動していただける共用空間としている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状況に合わせた居室作りを本人、家族と相談しながら実施しているが、利用者によっては、室内に私物があることにより更なる行動障害へとつながるため、良い状況となっていない場合も有る。	居室は洗面台とクロゼットが設置され、日中使用しないポータブルトイレにはカバーを掛ける等優しい配慮がある。自宅から持ち込まれた筆筒や装飾品、入居者自身の作品等が飾られ、どの居室からも色づいた木々を眺めることが出来、掃除が行届き、清潔で落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る力を総合的に判断し可能な限り自立した生活を基本とした支援を大切にしている。職員の工夫、やアイデアにより少し出来ること、少しわかることを大切に利用者に優しい環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく、楽しく、優しく」の理念は入居者のみならず関わるすべての人との関係作りの中で大切な目標としている。入居者にとって心地よい生活空間、スタッフとの信頼有る関係作りの基本とし、毎朝唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催事には積極的に参加している。自治会への参加や地域の方々との交流行事を双方の話し合いで計画し実施している。又、回覧や運営推進会議を活かし細かな情報を得たり、随時連絡、調整を行い参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に貢献し、より身近な施設、職員像を目指すことを意識しているが、積極的な活動は実施できていない。キャラバンメイトとしての役割、地域の中における認知症の啓発活動は、今後も努力目標である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は年間計画を行い、更に有意義な会議となり、役場担当者からの情報提供や地域、行政、事業所それぞれの立場から介護の現状、今後への課題等につき活発な意見交換が実施できている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ随時の連絡をとり、協力関係が得られる体制が有り、現状での課題や入居者に関する相談等、相互に連携を取りながら更に良い関係作りとなるよう努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけないオープンなケアが実施出来ている。スタッフ全員がケアの指針を理解し、一人ひとりの症状に合った拘束の無い柔軟な対応を実施できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止につきスタッフが介護の基本事項として理解している。豊かな経験を活かした尊厳のある認知症ケアを実践できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる入居者はいないが、今後の可能性を踏まえ、学びを深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際の不安、疑問については、契約前において充分納得いただけるよう随時丁寧に説明、回答を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで家族等の意見、苦情についてはいただけていないが、常に意見を表せる体制や関係作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、施設長、当該職員によるヒアリングの実施を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内における人事評価制度を用いて、処遇改善等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回のヒアリングにおいて、その職員が何を学びたいか把握すると共に、必要に応じた研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に1回の上益城ブロック会を実施し、情報交換、研修会、親睦を図り、相互の良い関係作りができています。又、個別の連携を随時行いながらネットワーク作りと、サービス向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の本人を取り巻く現状を把握し、本人の思いや不安に対し傾聴し、充分納得を得られるまでの対応を行ない安心していただくことにより信頼ある関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の現状に対し充分傾聴し困っていることへの共感、家族の思いを把握しながら施設、職員への信頼を感じていただけるよう常に意識し安心して相談できる関係作りに努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の状況により、実情に沿ったサービスの検討や、家族の希望を勘案しながら今、必要なサービスを見極めた利用の提案、対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する者同士という関係を前提とし、お互いに協力することで快適な生活を行う喜び、楽しみを感じていただき一人ひとりの支えあう関係を大切にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あくまでも家族、本人の絆は変わるものでなく、通常は生活の場を共にしていなくてもより以上に本人にとっての支えとなり、家族としての愛情、温かい関係を感じていただけるよう協働している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者にとって大切な関わりを持つ人や、友人への面会依頼、電話等支援し関係継続に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、利用者同士の良い関係作りを支えると共に、利用者間のお互いの思いやり、助け合いにより良い人間関係を維持できるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の待機時や利用終了後も関わりを持つ関係として大切にし、随時の相談やアドバイス、又、情報をいただいたりしながら相互の良い関係作りに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向については、把握するには困難な場合が多いが、共に生活し会話をする中で気づき、思いを察知し本人本位の暮らしを支援するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の中から一人ひとりの暮らし方、周囲との関係、馴染みの暮らしを把握し共有するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活スタイルを大切に、表情や体調の変化を常に敏感に察知し、一人ひとりの可能性を最大限に活かす暮らしへの関わりを、スタッフ全員が周知し実行している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や、面会時に家族との話し合いを設け、意向や希望に即したプランを作成している。又、1ヶ月毎のモニタリング、随時のスタッフ間の話し合いにより利用者の変化に即したプラン見直しを実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子や夜間の状況を個別記録し、スタッフ間の詳細な報告、周知により統一した介護の実践を行っている。又、気づきやアイデアにつき連絡帳に記入したり、随時情報交換を行ない、プラン作成に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応を基本とし、日々の状況の中で利用者や家族の要望に随時対応できる体制が有り、通常の生活の一場面として支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や老人会のボランティア活動時の交流や、近隣商店への買い物外出、又、同地区内の理容師さんによる散髪を依頼し、随時に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院において主治医との情報交換を密に行い、適切な治療が随時受けられる体制が整っている。定期的な回診、必要時の受診等常に連携をとり主に職員が受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHの看護職員として1名が配置されている。又、母体施設の看護師の協力体制も整っており、日常の変化に迅速に対応できる確かな対応、指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院から退院までの過程の中で病状経過や随時の情報交換等、看護師が中心となり連携を行っている。又、必要に応じ、主治医、家族、職員による話し合いの場を設け、現状把握、情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化に伴いながら、主治医、家族、施設の話し合いを設け、検討を重ね状況や家族の希望に添いながら状況に即した対応を実施している。状態の変化に即した対応の実施につき家族の理解を得ながら方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故やヒヤリハットの発生につき、事後の検討会を行い、発生時の対応やシミュレーションによる事故防止委員会を行っている。又、勉強会の時間を利用し、訓練、実践力を全員で身に付けるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所全体の訓練や勉強会、GH独自の避難訓練を定期的に行っている。又、職員連絡網の伝達訓練を行い、非常時の迅速な召集、訓練後の反省、改善につき全員で検討している。今後地域との連携を更に深めたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性や人格を尊重し、一人ひとりに合った対応を職員全員が心掛けている。認知症に伴う症状に配慮し、本人の心理状態、表情を見ながら思いに添った穏やかな対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員サイドの都合や決まり事を優先せず、本人を主とした対応を行い、利用者自ら表現することのできない思いや希望を、会話や関わりを通し、自己決定できるよう努め、表現できる機会を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で一人ひとりの心身の状態を察知し、本人のペースを大切に思いに添いながら快適に過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの好みに合った、その人らしさを感じるおしゃれを大切に支援している。又、化粧品等は肌の状態に合った物を選んだり、散髪は地域の理容師さんや職員が行い、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの口腔状態、食事状況を把握し、食事を安全に楽しんでいただけるような献立、食事形態を考慮したり、好みを取り入れながらおいしい食事作りに努力している。食事作りから片付けまで、一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は利用者の状態により必要な量を職員全員が把握し、食事、おやつ、随時の水分補給を支援すると共にその日の状況を見極めながら摂取量のバランスに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯洗浄、うがい等利用者の状態に合った口腔ケアを実施している。歯科担当Drより口腔ケアに関し良い評価を得ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、排泄パターンの把握によりトイレ誘導、声かけを行っている。排泄の失敗についてはさりげなく対応し、本人の行動を見ながら事前に防止できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンにより適度な運動の実施、又、乳酸飲料等の飲用により排便促進を支援し、必要に応じ主治医に相談しながら、下剤の服用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後より入浴を実施している。夕食までの間を入浴時間帯としゆっくり入浴していただき、入浴拒否については数回時間を置いて声かけを試み、利用者に合った対応により支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながる日中の活動と共に、習慣的、その時の精神状態での睡眠パターンにつき充分考慮し、状態に合った睡眠を支援し安心を感じていただけるよう関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容につき職員全員が把握すると共に、更なる改善に向け症状の変化や確認を随時心掛け、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループ活動や一人ひとりの好みに合った余暇活動行い、自ら参加していただける環境作りに努めている。気分の高揚を図り、生活の活性化や気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然環境に恵まれた中において、四季折々の眺めを楽しんでいただいたり、日常的に外の空気を感じられるよう支援し、足をのばしての外出やドライブ等本人の気持ちに添いながら、随時対応に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活する中でのお金の所持や大切さ、長年の習慣でのお金を使う行為を確認していただけるよう一緒に買い物をしたり、お金の支払いを支援している。利用者の力に応じ行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代筆、代読は必要に応じ行っている。本人からの電話の依頼についても柔軟に、随時の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって快適な室内、共用スペースであることに配慮し、清潔感、明るさ、室温、季節感、雰囲気、馴染みの物、新しい物等毎日の生活の中での快い刺激や安心を感じていただけるよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、和室、ウッドデッキ、食堂、玄関前スペース等、仲間作りや共に楽しめる場として有効に活用している。又、前庭の芝生のスペースにおいても季節を感じながら自由に活動していただける共用空間として利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状況に合わせた居室作りを本人、家族と相談しながら実施している。利用者が安全に落ち着いて過ごせる雰囲気、使い慣れた物や思いに合わせた装飾等を一緒に工夫しながら居心地の良いプライベート空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る力を総合的に判断し可能な限り自立した生活を基本とした支援を大切にしている。職員の工夫、やアイデアにより少し出来ること、少しわかることを大切に利用者に優しい環境づくりに努めている。		